



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2021年11月08日 第1043号「週刊五十嵐レポート」

## 同時多発の供給不足

半導体需要の急速な高まり、新型コロナウイルス感染拡大による東南アジアの工場の減産、また中国の電力不足で完成品メーカーに部品を供給するメーカーの工場が稼働停止に追い込まれ、世界的なサプライチェーン(供給網)が寸断など、様々な要素が重なり合い、調達が混乱している。

日経ビジネスによると、ファナックでも「半導体や電子部品、鉄、銅線、樹脂など、あらゆる部品や素材が入手難に陥り、納期が延びてしまっている。少なくとも半年はモノ不足が続く」と。

需要はあるのに供給ができない。コロナ禍では供給はあるのに需要がない状態でもあった。その反動で今は需要増、しかし供給がない。違った不安材料が生まれた。明確な解はない。

中小の製造業でも加工する素材が思うように仕入れることができない、且つ価格は高騰している。取引先とはタフな交渉になる。従来通りの価格や数量はできない。数量を絞り、価格もそれ相当に上げることになる。減産もしくは生産休止など。

靴製造会社は日本製ではあるが、素材の一部が海外調達。それが届かないため、製造ができない状態に陥る。今までコロナ禍でユーザーが外出を自粛していたため、売れずに在庫としてある商品を順次売っていくことになった。

飲食店は緊急事態宣言解除により、顧客は週末戻りつつあるが平日はまだコロナ前には戻っていない。需要は戻りつつあるが、人手という供給が大幅に不足している。パートアルバイトの戦力が集まらない。店を開きたくても開けないところもある。また平日はコロナ禍と同様に営業時間を短縮せざるを得ない。緊急事態宣言中は協力金があったが、今はない。新たな生き残りを考える。

会社は粗利益で生きている。人件費やその他の経費を賄うだけの粗利益を確保しなければならない。利益性の原則を再度見直す。粗利益の補給力がどこにあるのか、もう一度再確認する。コロナ禍とは違った我慢が要る。

ちょっと  
気になる出来事

10月11～15日、日経夕刊「人間発見」は大西泰斗さん(現NHKテレビ講座「英会話☆定番レシピ」の講師、東洋学園大学教授)。現在、「それわ英語じゃないだらふ」(幻冬舎)がベストセラー。

「なぜ日本人は英語が話せないのか。その理由は簡単。学校で学んできた英語が『話す』ことに適していない。『読解』を目標にしているから。日本人は『話せない』が、『読むことはできる』と自負している。

ならば、『話す』ための文法を作り、そのためのトレーニングをすれば当然話すことは出来る。よく聞く『聞き流せば短時間で英会話が上達する』や『外国で暮らせばすぐに話せるようになる』という短兵急な解決法は疑問です。まず文法で英語の動き方を理解し、その上で地道に暗記を重ねる。それが大切です」

大西先生の番組は2016年ぐらいから「しごとの基礎英語」を見ていた。この10月から「英会話☆定番レシピ」が始まった。

中国語も同様に話すためには「文法」が大事であり、「多听多说」と言われている。「話す」ためのトレーニングを続ける。急がば回れ。



一口メモ  
知識

## 市井

往来井(おうらいせい)を井とす。

井戸のまわりには、貧富や地位階級の別に関係なく、あらゆる人々が往来する。旅人も、動物も、等しく冷たく新鮮な水の恩沢を受けにやって来る。

庶民の社会を表す「市井(しせい)」という言葉がある。これは古来、清く澄んだ井戸水のあるところに人が往来し、集まり、市が立ち、村ができたことから生まれた言葉である。

水風井(すいふうせい)の卦(か)が表す井の徳は、移り動かず、常に一定の清い水を湛(たた)える日用の徳。人を選ばず、万人に用いる徳を表している。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5  
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

